



No.722



こころの統合を目指して
中学生みこし運行



みこし文化の伝承・中学生の心の統合 奥州涌谷神輿會のまちづくり

ソイヤ・サー。ソイヤ・サー。

毎年、夏まつり会場に響き渡るみこしの担ぎ手たちの勇ましい声。

今年の夏は、ちょっと違った。

活気あふれる若者の声に加わっていたことに気づきませんでしたか？



旧涌谷中学校・旧麓岳中学校の友好をさらに深めたい

5月22日(金)に涌谷公民館で行われた「平成27年度涌谷町かがやく協働まちづくり補助金の審査会」に法被に身を包んだ奥州涌谷神輿會の会員が3人。奥州涌谷神輿會では、商工会から譲り受けたまこしを使用した夏まつりでのみこし運行による町の活性化と手づくりの子どもみこしによるみこし文化の担い手育成を行ってまいりました。

今回、奥州涌谷神輿會では、「みこし文化」の伝承のほかに、この春に統合した「新生涌谷中学校」に通う麓岳地区と涌谷地区の生徒たちが「みこし文化」を通してさらに友好を深め「こころの統合」を図るとともに、町の活性化に参加し、成し遂げることで得られる達成感によるまちづくりの担い手育成を目的とした事業を提案。

事業が採択された際に制作される「中学生みこし

奥州涌谷神輿會

会員相互の連携と情報交換を図り、神輿の伝統を継承し子どもたちの育成に努めながら涌谷町の地域振興に寄与することを目的とした団体。

「し」の模型を持参し、町と子どもたち、そして、みこし文化伝承の将来を力強く熱くプレゼンテーション。

結果、事業提案した9団体中最も高い評価を得て採択されました。

8月14日の「わくや夏まつり」に向け、奥州涌谷神輿會と新生涌谷中学校の生徒たちの熱い熱い夏が幕を開けました。



【写真】「中学生みこし」の模型を持参し、事業提案に臨む小野寺孝理事(左)佐藤崇総代(中)中島伸顧問(右)



【写真】連日深夜まで及んだ中学生みこし制作作業。材料の調達から切り出し、組み上げまでをすべて手作業で行う

**子どもたちのために
思いが深夜まで突き動かす**

5月22日(金)の審査会によって採択された「中学生みこし」事業。7月に入り実現に向けて、みこしの制作作業が開始されました。制作作業は、神輿會の会員の方々各自が抱える仕事を終えた夜に、神輿會の松浦恒治会長が所有する作業場に集まり、連日深夜まで行われています。

その深夜まで及ぶ作業は、今回の「中学生みこし」に限ったことではなく、毎年実施している「子どもみこし」においても同様と話します。奥州涌谷神輿會は、涌谷神輿保存會の名も持ちます。みこしを運行するだけの団体ではなく、みこし文化を継承することを会の目的としています。その目的を達成するために、子どもたちに「みこしは楽しいものだ。参加して良かった」とそう思わせることが大切と考え、子どもたちに良い経験を与え

たいという一心で取り組みます。今回の「中学生みこし」は、涌谷町の発展・活性化のためにできることは何かと考え、みこし文化を保存する会としてできること、つまり、会としての原点に立ち返り考えられました。

その結果、今後みこし文化を途切れさせず継承するために空白となっていた世代を巻き込み、将来の町の活性化にもつながっていく中学生に自分たちでアイデアを出し合い、作り上げ、担ぎ手として参加してもらおうという今回の企画が誕生。

**「こころの統合」に向け
新生涌中生たちと協働**

完成したみこしの土台部分は、夏休み前に涌谷中学校へと搬入されました。一学期の終業式後、PTA会長も務める小野寺理事から「中学生みこしに参加して良かったと必ず思えると約束する。そして、みこし担ぎに、仲間と一緒にこれからも

参加していきたくと思わせる」。神輿會会員の一人として、PTA会長として、そして、一人の生徒の親として全校生徒に「中学生みこし」事業を紹介。

中学校側からも全面的な協力を得られ、夏休みを利用して、神輿會と生徒が協働し、みこし飾りの作成と担ぎ方の練習が行われました。

みこし飾りの作成には、吹奏楽部と総合文化部の生徒が中心に、多くの生徒が自らの空き時間を利用して入れ替わりながら率先して参加。涌谷町唯一の中学校のみこしとして、涌谷町に唯一にしてシンボルとなっている史料館を象ったみこしができあがりしました。みこし担ぎの練習にも、約40名が集まり、手ほどきを受けました。「みこし文化」を中心に「こころの統合」が完成しつつありました。



【写真】(左)夏休み期間中にもかかわらず40名の生徒がみこし担ぎの練習に集合(右)終業式で作成したみこしの土台を全校生徒に披露

子どもたち、

楽しさと達成感を

8月13日(木)のわくや夏まつり前日、くがね倉庫で、翌日の本番に向け神輿會の会員が準備に集まっていた。

佐藤総代は「子どもたちには、『みこしを担いで楽しかった』と思ってもらい、この事業に携わったことへの達成感を味わわせてあげたい」その言葉から、神輿會の今後への希望と、町を盛り上げるための大きなねりを作り出していることへの確信が感じられました。

いよいよ運行本番！

成るか!? こころの統合

8月14日(金)の夏まつり当日の夕方、新町の発行式会場に、法被に身を包んだ60名以上の中学生が集合。

みこし運行に対する期待と不安が入り混じった表情で臨む中学生に対し、神輿會の会員が緊張をほぐすように、話しかけていました。

開始直後は、表情が硬く掛け声も小さいものでしたが、みこしが進むにつれ、一つになり物事を成し遂げようとする意志が高揚。神輿會としても支えようといつし

か真剣な表情でサポート。「最後の宮入りの際に、

旧笹岳中学校の生徒会長がみこしに乗り、旧涌谷中学校の生徒会長が迎え入れた。生徒たちが急ぎよ発案。「大人みこし」を上回るような掛け声と思いき最高潮に達し、見事宮入りを果たしました。「新生涌谷中学校としてのこころの統合」が完成した瞬間でした。

また、もう一つの成果として、みこし作成に携わった生徒が浴衣で来場し、保護者も子どもの勇姿を見たいと「中学生みこし」を核に、にぎわいを生み出していました。

中学生みこし初年度は、

大・大・大成功！

生徒たちは、みこしのデザインをはじめ、運行中の演出の実行や今後の大人みこしへの参加を自発的に言葉にしました。本来の目的の「こころの統合」と「みこし文化の伝承」以上に、「生徒たちの大いなる成長」と「先生も含め中学校全体が一つになる」という大きな成果につながったのではないのでしょうか。

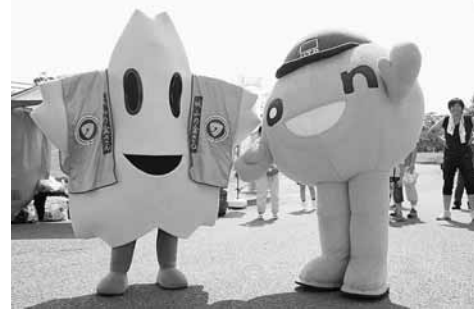
翌朝、会場のゴミ拾いをする生徒と神輿會会員の表情と言葉から「事業の大成功」を感じ取れました。



水曜どうでしょう DODESYO CARAVAN



この夏、わくや天平の湯を会場に「水曜どうでしょうDODESYO CARAVAN2015」が開催され、全国から「藩士」と呼ばれるファンが浦谷町に集結。番組出演者の藤村Dと嬉野Dの御二方とともに、ずんだ餅のおふるまいやカルトクイズ大会、縁のアーティスト「打首獄門同好会」「黒色すみれ」によるライブで盛り上がりました。



夏の本番の到来を告げる恒例の「伊達かつぱの里まつり」。今年も「きゅうりの早食い」をはじめ、各種団体のステージや生演奏が行われ、多くのお客さんでにぎわいました。



行政区の夏まつり

各行政区においても、地域の親睦を深めるようと、夏まつりが開催され、世代間交流が行われました。



写真
特集

今年もアツかったア～ わくやの夏

今年も涌谷町各地で、様々な夏の催しが行われました。
毎年恒例のものから、今年初めて開催されたイベントまで。
今年の酷暑・炎暑よりもアツく盛り上がった各地のイベントをご紹介します。

わくや夏まつり

涌谷町の夏まつりのメインイベント「わくや夏まつり」が、今年も8月14日に河川敷を会場に開催されました。

当日は、あいにくの天候でしたが、夕方以降は客足も伸び、各種縁日やステージ、みこし運行、盆踊り、花火大会、お楽しみ抽選会など、盛り上がりを見せました。



子どもの安全安心な生活を守る一助として

日本公衆電話会から「子ども手帳」寄贈



7月16日(木)に、日本公衆電話会宮城支部事務局及川事務局長と同会県北分会佐藤理事が涌谷町教育委員会を訪れ、「子どもたちの安全で安心な生活に役立ててほしい」と、「子ども手帳」200冊を寄贈されました。

手帳には、110番、119番などの緊急通報のかけ方をはじめ、事故や犯罪から身を守る方法や、自然環境に優しい「エコ生活」の知識も紹介されています。

避難行動要支援者を守れ！

大規模災害への備え 災害救援福祉マップを作成



7月23日(木)に、町民医療福祉センター研修ホールにおいて、地震や大雨等の災害が発生した際に、避難行動に支援を必要とする方々の所在を示した「災害救援福祉マップ」の作成が行われました。

地域の実情を知り尽くす行政区長さんをはじめ、民生委員さん、評議員さん、自主防災組織の会長さんに協力いただけたことで、安心・安全なまちづくりの強い基礎となりました。

今年は2団体が参加！20号玉の打ち上げ花火を体験！

大石田まつりに交流・参加

8月15日(土)16日(日)に、友好交流都市の大石田町で開催された維新祭と大石田まつりに涌谷町民が参加し、交流してまいりました。

15日(土)の町民組織「大石田まつりを10倍楽しくする会」が主催する維新祭には、昨年が続いてすずめ踊りの団体「万葉さくら組」に加えて「涌谷太鼓」が出演し、華麗で優雅なすずめ踊りと勇壮な太鼓の音を大石田町に届け、会場からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。



16日(日)の大石田まつり最上川花火大会には、25名の涌谷町民が参加し、活気あふれるまつり会場や、圧倒的な迫力を持つ日本一の町民号「20号玉10連発」、音楽に合わせて打ち上げられる幻想的な「創造花火」を体験してまいりました。

また、大石田まつりのみこし運行に、「奥州涌谷神輿會」も参加し、役場を介さない町民同士の自発的な交流も行われました。